

架け橋期のカリキュラム 生活の中での「話すこと・聞くこと、読むこと・書くこと」に視点を当てて

は、「話すこと・聞くこと、読むこと・書くこと」における言葉掛けの視点

「ことば」は全教科に通じるため、言語・文化生活の立場から広めに捉える

Ⅰ期		Ⅱ期		Ⅲ期
様々な人と関わり、言葉によるやり取りを重ねる中で、表現を豊かにしたり、考えを深めていったりする言葉掛け		他と関わる中で、自分の世界から、徐々に世界を言葉を使って広げていく		
興味をもったことに深く関わる中で、気付いたり、考えたりし、それを表現するための語彙を豊かにしていく言葉掛け		絵本を見たり、話したり聞いたりする中で言葉を知ったり、覚えたりして言葉を獲得していく		
【みんなで心地よく生活するために必要な言葉やコミュニケーション態度の獲得】 ■あいさつ(必要な言葉を知り、日常的に実践) 「自分から『おはよう』が言えるとうれしいね」 「今はお帰前だから、挨拶は『こんちは』ですね」 「どんなときでもお礼が言えるのはすてきなね」 (誕生会などの場面で)「おめでとう」と言われたら、何と返事しますか? (→ありがたい) (測定時、当番活動の翌日への引き継ぎなどの場面で)「何と言ったらいいでしょう?」(→よろしくお願いします) ■日常生活の中で、話したり、聞いたりする場面で 「○○ちゃん、そう思っていたんだね」 「よくわかったよ、そういう気持ちだったんだね」 「○○ちゃんのお話、よくわかった」 「上手にお話できたね」 「友達にお話を聞いてもうとうと嬉しいね」 「先生もそう思ったよ」 ■相手や状況に応じた言葉、表現 ○目上の人には… 「友達と話すごとき、先生に話すごときは違うよね。話す相手は先生のときとは何と違ったらいかな?」 ○大きな部屋では… 「みんながいる中での相談場面で…」 「みんなに聞こえるようにするには、隣の友達と相談するときは、どのくらいの声の大きさを言うのがいいかな?」 ○学級の中でその日楽しかったことや、気付いたことを学級の中で話す、聞くなどの場面で 「○○!」と言うだけではなく「○○が楽しかったです」と話すと、よく伝わるよ」 「友達がつかり目を見て話を聞いてくれるとうれしいね」 「みんなが一度に話をすると、何と言っているのかわからないね」 「今は○○さんが話しているよ。○○さんが終わったら、みんなの話も聞くらからそれまで待っているよ」		【日常生活との結びつき】 ■日常のことは 「おはようございます」「さようなら」「よろしくおねがいします」「ありがとうございます」「○○です」「○○していいですか」「○○してください」「(名前を呼ばれて)はい」 【ことばのとびら】(国語) ■はるがきた 教科書の絵を見て、入学前の経験も想起しながら気付いたことや想像したことを話す。個性や多様性を尊重しながら、クラスや学校生活を作り上げる意識の土台や学校生活や学びへの期待感につなげる。 「どこにいるかな」「何をしているのかな」「どんな話をしているのかな」「だれがいるかな?」 →入学前の経験を思い出しながら話す。 「話し方がうまいね」「聞き方が上手!」話す順番を守っているね」「話したり聞いたりするルールが守れているね」 ■さあはじめよう 国語の学習はこれから「話をよく聞くこと」「自分の思いを伝えること」「字を書くこと」「お話を読むこと(文字をよく読むこと)」 ○教科書の絵を見て、気付いたことや想像したことを話す場面で 「みんなでどんなことをしてみたいですか?」 「大きな紙飛行機も飛べようか?」 「宇宙まで行ってみたいかな?」など、自分の知っている知識を使って話をする。 ○発表するときの言葉と話すときの言葉を意識して話す。 「何を言いましたか?」 →「校庭に○○がありました」 「お友達と話してみよう」 →「校庭で○○を見つけたよ」 「どのくらいの声の大きさがいいかな?」「校庭の声じゃ大きすぎるよ。耳がいたくなっちゃう!」「○○って言うんだよ」と教えて学習の理解を深めていく。 ○幼稚園や保育園などの時の様子を話す。 「このお話知ってるよ、○○の時に書きましたよ」 「このお話は知らないけど、おじいさんやおばあさんが出てくるお話を聞いたことがあるよ」 ○教科書に出てくる言葉を共通理解する場面 →「赤い顔つことは、暑いかな。それとも恥ずかしいかな?」 「周りに誰もいないから、きつと暑いんだよ!」 「のっぴりってどんな感じかな?」(体で表現しながら)「こうじゃない?」		○自分の考えと同じ、似ている、違うなど自分の意見と友達の意見を比べながら聞いたり、話したりする場面で 「どのように思いますか?」 →「同じことを考えました!」「ちょっと違うけど、○○だと思いました!」「私は○○だと思う。」 ○質問に対して、答えとその理由を伝える言いや方を確認する場面で ・「お友達に聞きたいことがあるときにどのような言葉を使いますか?」 ○初めての説明的な文章との出会いの場面で ・「写真の中で知っているものや見たことのあるものはありますか?」 「これは何のお花が話合っていますか?」 「もっと知りたいと思った花のつぼみはどれですか?」 ○物語を読む場面で 「どのように読んだら○○さんの気持ちが伝わるでしょう?」「こんな動きをしている友達がいまいた。(他に出てくる動物(人)はどのような動きにしたらいいでしょうか。)」 ○長い物語文を読む場面で 「登場人物の」○○はどのような気持ちだったでしょう?」「気持ちが伝わるように、○○になったつもりで読んでみましょう。」 ○説明文を読む場面で 「初めて知ったことは何ですか?」 ○読み取った内容の確認をする場面で 「何が、どのように語られていたか、友達と話しましょう」 (問と答えを確認する。)
音と文字の一致・必要なことを知るため、自分の思いを伝えるための手段として文字(読む・書く)と出会う		文字(読む・書く)を読んだり書いたりしながら、文字の世界・言葉の世界を広げていく		
○お店ごっこでメニューや看板をつくりたい幼児に 「『おすし』は、こうやって書くよ」 「『みかん』の読みは、○○さんの名前に出てくるね」 「名札を見てみよう」 ○一人ひとりの作品に表示されている名前を見たり、作品を整理したりする場面で 「○○さんがかいたんだね」 「○○さんがつくったんだね」 「誰がつくったの?」→「○○さんってかいてあるね」 「これは○○さんのだから、みんながわかるように名前を書いておくね」 ○言葉遊びの場面で 「あがつくたべものはなかなかな?」 絵本と結びつけて絵と文字とセットで。 「いろいろなたべものがあるね」 ○しりとり遊び・しりとりダンス 「だいたい」 「ひととんがかつとんだ」「らくだはらくだ」 「犬の心臓がドクドク」 「じゃけんボンボン、あいでしょうゆ」 ・回文「イカと貝!」こたつたこ		○興味をもった事柄に継続して取り組む中で 「今日決まったことを忘れないように書いておこう」 ○話し合いを文字で整理していく場面で 「グループの名前をかいておこうね」 「みんなが考えたことを教えて」と文字に表していく ○言葉遊びの場面で 「あがつくたべものはなかなかな?」 絵本と結びつけて絵と文字とセットで。 「いろいろなたべものがあるね」 ○しりとり遊び・しりとりダンス 「だいたい」 「ひととんがかつとんだ」「らくだはらくだ」 「犬の心臓がドクドク」 「じゃけんボンボン、あいでしょうゆ」 ・回文「イカと貝!」こたつたこ		○ひらがなの学習の場面で、「〇のつく言葉は何がありますか?」 「かきに点々をつけたらかきになるよ!」 「1年生になって決まったところに決まった字を書くのが楽しいよ!」 「みんなで一緒に(詩を)読むと、綺麗に聞けて楽しいよ!」 ○〇のように音読するといひかな?」 「周でやったことあるよ!」「ひっくり返した感じと、不思議な感じが混ざっている!」(体を動かしながら)「こんな感じかな?」「こんな動きもできるよ!」→周での体験を想起して。 ○「ハートの形に似ています!」「○○より、〇〇の方が大きいです!」「ちようちんたいの形に似ています!」(体で話言葉で伝え合っていたものを、書き言葉にしにマーカーシートに記入する。)

幼児期にも行ってきたあいさつや返事、質問に答えるなど、全く違う世界に飛び込むのではないこと(小学校で言うことも社会のマナーとして同じであること)等これまでの経験や学びを継続する形で学習が始まる。

自分の思いを特定の友達や先生に話していた世界から、書いたり、読んだりする学習を通して、学級・学年・上級生・校内の職員など広い世界の中で使える言葉を習得していく。

ひらがなからカタカナ、漢字へ

架け橋期のカリキュラム 生活の中での「数」に焦点を当てて

は、「数」における言葉掛けの視点

I 期	II 期	III 期
生活の中で、直観で数を捉える体験の場面や言葉掛け ○ジャガイモやサツマイモ堀り ・収穫量と食べる人数との比較の場面で 「たくさん採れたね。みんなで食べられるかな？」 ○なわとび ・自分が何回跳んだか確かめる場面で 「さっきより多く跳べたね」「何回、跳べたかな？」 ○ドングリ ・過足で拾ったドングリをみんなで集める場面で「いっぱいあるね」 「（手で触りながら）ジャラジャラたくさんあって気持ちいいね」 ・ドングリを種類によって分ける場面で 「数えきれないくらいいっぱいだね」「ぼうし付きは、何個ある？」「ぼうし付きは3つしかないね」 ○池のおタマジャクシを見て「たくさんいるね」「たくさんいるから他のクラスにも分けてあげよう」 ○正月遊び ・自分がどれだけできるようになったか達成感を味わうことにつながる場面で 「カルタは何枚、取れたかな？」「羽根は何回、つけたかな？」「コマは連続で何回、回せたかな？」 「前は、○回だったけど、今は○回も回ったね」 ○栽培 ・クラス全体で栽培する時に適当な数を全体で周知するため場面で 「プランターに苗をいくつ入れようか？」 ○花の鑑賞 他の部分にも着目してほしい場面で 「花が咲いたね、たくさん咲いたね」「花びらいっぱいきれいだね」 「よく見てみると、一つの花に何枚も花びらがあるんだね」「一つの花に花弁はいくつついているのかな？」 「他の花も同じかな？」	生活の中で、見たこと・感じたことなどから、多い少ない、狭い広い、高い低い、軽い重いなどの感覚を直観で捉えていくことから始められるように 【日常生活との結びつき】 ・個人ロッカー「上から何番目」 「友達と半分ずつ使う」 ・自分の列のこと「1号車さん」 ・給食当番 白衣の番号(1番、2番…) 牛乳配り「2本ずつ配ってね」 「2号車」 ・同じ下校コース ■なかまづくりの学習で 「同じ下校コースの友達は○人ですね」 「生活班の1班は○人」 ■なんぼんめの学習で 「前から○番目の人は 手を挙げましょう」 標識や文字の役割に気付く 生活の中で、「10」の捉えにつながる体験の場面や言葉掛け ○お店屋さんごっこ ・お客さんが多く来て、品物が足りずお客の数に合わせて品物をつくることを促す 場面で「お客さん4名様です」「ケーキが三つしかないけどどうする？」 「スプーンはみんなにあるかな？」「足りるかな？」 ・明日への遊びにつなげる場面で 「今日は全部売っちゃったね。明日のために何個、用意しようか？」 ○ショーごっこ・招待状と椅子の数を合わせることに気付かせる場面で 「招待状は何枚、作ったの？」「お客さんは何人、来るかな？」 ○椅子の片付け・「たくさん重ねるとどうなっちゃうかな？」「四つずつ重ねると危なくないね」 ○ドッジボールやリレー ・2チームの人数差が生じている場面で 「あっちのチームは何人かな？」「これで始めている？」 ・自分の役割を確認する場面で 「何番目に走るのかな？」 ○育てた花の鑑賞・育った喜びを感じる場面で 「花が咲いたのはいくつあるかな？」「この前よりも大きくなったのはいくつあるかな？」 ○ままごと ・遊んでいる人数を数える場面で 「何人家族のおうちなのかな？」「3人暮らしなんだね」 ○カレンダー・発表会までの日数を数える場面で「あと3日だね」	生活の中で、「5」までの世界から「10」の世界へ「10」の世界を存分に感じられるように ■算数のとびらの学習で。 幼児期に育った数や量への関心・感覚を想起して。 ・教科書の写真を見て、保育園・幼稚園での生活を想起して ・「幼稚園、保育園で、どんなことやったの？」 ・「こんなことしたことがある？」 ・「ドングリの数や大きさを比べたことはあるかな？」 ・考えたことについて「本当かな」 ・「どうやって確かめようか」 ・「○○さんが、こんなことをしていたよ」 ・「どうしたら確かめられるかな」 ・「どうしてそう思ったのかな」 幼児期にも経験してきている「たくさん～」「ちよつと～」「どちらが～」(多い、長い、広い、大きい…)などの比較や「何回～」「いくつ～」「何番目」などの数の捉えについて、これまでの経験や学びを継続する形で学習が始まる。 このままではわからないから、調べてみよう、よい方法はないかと解決の方法を見出していく場面や言葉掛け ○じゃがいもの収穫 ・全部でいくつか数える場面で 「数えていても途中でわからなくなっちゃうね」「数えきれないね」 「どうやってわかる？」 「大きさをわけるといいのかな」 ○ドッチボールやリレー ・2チームの人数差のあるまま進めている場面で 「どうして負けちゃったんだろう？」「どうしたらいいのかな？」 ・2チームの人数を同じにしようとしている場面で 「二人組で並ぶと分かりやすいね」 ○栽培物の収穫 ・大根を一本収穫した場面で 「どうしようか」「どうやってみんなが持って帰れるかな？」 「一本の大根をみんなで分ける場面で「みんなが納得できる方法はあるかな？」
具体から 半具体物へ 算数ブロックで 教室にあるものを使って ■ビオトープの観察をする。 ・「ビオトープにどんな生き物がいるかな？」 「何匹いるかな？」 「一番多くいるのは何かな？」 幼児期は、具体物や言葉、絵などで表していた数を、数字や半具体物、絵図、式など多様な形で表す方法を習得していく。		

架け橋期のカリキュラム 生活の中での「体づくり運動」に視点を当てて

は、「体づくり運動」における言葉掛けの視点

I 期	II 期		III 期
	多様な動きを楽しむ言葉かけ ■走る動き かけっこ、リレーなどで 「思いきり走ってみよう」 「みんなで気持ちをつないで走ろう」 ■タグ取り鬼 ○なかなか勝てず悔しさを感じているチームが士気を取り戻せるよう励ます場面で 「次こそ勝ちたいよね。どうやったら勝てるか、よい考えはない？」 「○○さんは、どうして速く走れるんだらうね？」 「なるほど。チームのみんなが○○さんみたいにやってみたら、全員が速くなるかな。」 ○独自のルールをつくり、ルールがある楽しさをさらに感じられるようにする場面で 「どうしたら、みんなの遊びがもっと面白くなるかな？」 「遊ぶときの約束を考えてみよう」「その考えいいね。みんなに伝えてみたらどう？」 ■一本橋、マット、巧技台、トンネル、ハードル、網などを取り入れたサーキット遊び自分なりに挑戦を楽しむ場面で 「マットにある赤の線はレベル1、黄色の線はレベル2だよ。どこまで跳んでいけるかな」「○○さん、レベル2も居いたね。レベル3の線の場所は自分で決めてみる？」 「一本橋を渡るのが速くなったね！何秒で渡れるか教えてみよう」 「(動物の動きに例えて)○○みたいにできるかな」 「(動物の動きに例えて)○○さんのようにやってみると○○らしいね」 ■上り棒や鉄棒、雲梯などの固定遊具を使った遊び 自分なりに挑戦を楽しむ場面で 「昨日は糸の線のところまで居いたよね。今日は何色までいけるかな？」 「前より、○○になったね」 ■2人組やグループで様々な動きを試す場面(足の裏や背中を合わ引っ張り合うなど動き、なべなべそこぬけ など) 「友達と足の裏を合わせてみよう。足をくっつけたまま、引っ張り合いができるかな？」 「さっきは足の裏だったね。次はどこを合わせる？／何人で合わせる？」 「なべなべそこぬけ、何人でできるかな？」 ■ボール遊び ドッジボール遊びの場面で 「避けるのが上手」「素早いね」「動きがいいね」「上手にとれたね」「ナイスキャッチ」「惜しい！」 ○主入れ、的あて ボールの大きさ、やわらかさなど様々な感触を確かめながら ○サッカー 「かっこいいね」「シュートできるかな」 ■音楽に合わせてリズムを楽しむ ジャンプや手足の左右の動き、体を使ったり手拍子などを取り入れたりして、体全体で楽しむ。 「音楽に合わせて、やってみよう」 「二人の息もぴったり合っているね」 「リズムに合っていると気持ちいいね」 ■手具を使った遊び 長縄、短縄、フラフープ、リボンなど 「リズムに合わせて、ジャンプ、ジャンプ」 「前よりもたくさん、跳べるようになったね」 「ジャンプのコツ、教えてほしいな」 ■体操(就学に向けての期待感が高まり、小学校での生活に関心が向いている場面) 「こうやって足を、膝の後ろを伸ばすのやったことあるでしょう？学校では『伸脚』『アキレス腱伸ばし』って言うんだって」	生活の中や、幼児期に経験した運動遊びへの関心・感覚を想起して ■体育のとびらの学習で。 幼児期に経験した運動遊びへの関心・感覚を想起して。(体ほぐし、固定施設、鬼遊び等で) 「教室でみんな楽しく遊ぼう。入学前に園でどんな遊びをしましたか？みんなですべて仲間になろう」 「小学校の校庭は広いでしょう。思いっきり走ると気持ちがいいよ」 「ジャングルジムや上り棒ではどんな遊びをしましたか？登っている人の下から離れて安全に遊んでいる人、いいね」 「集まるときは背の順で並びましょう」 ■体ほぐしの運動遊び 「もうじゅうがり、じゃんけん列車、体じゃんけん…」 入学前にやったことがありますか？友達に紹介してね」 ■かけっこ 「順番を守ると楽しく運動できるね」 「応援すると楽しい、応援されると嬉しいね」 ■鬼遊び 「ルールを守ると楽しいね」 「どうしたら捕まらないかな」 「工夫したことを教えてね」 「チームで力を合わせたら上手いくんだね」 「どんなルールにしたら楽しいかな」 「できるようになったことを教えてね」 「うまくできた友達をよく見てみよう」 ■いろいろなごき遊び ・バランスをとってみよう 「勢いをつけると綺麗にまわるんだね」 「ふたりでケンケン 競走するの楽しそう」 ・フラフープを使ってみよう 「長い時間ころがせているね。すごい」 「勢いを付けて胸でまわってるんだね」 「足やお腹で回している人、楽しそう」 「左手でも挑戦してるんだね」 「手をシュッと振ってるんだね」 「くぐるのもしろいね」 ・力試しで 「足を開くと強いんだね」 ・ボールを使って 「二人で運ぶよ。うまく運べるコツは？」 「ボール送りのときは、はいと声を掛け合っていていいね」 ■固定施設遊びで 「順番を守ると気持ちがいいね」 「ジャングルジムでは下に人がいないかを見て降りていてえらい」 「足を離して手だけでぶら下がれたね」 「ふわっと降りれたね」	遊びの中で見付けた児童の気付きを大切に

幼児期にも行ってきた体を支えることや逆さ感覚を味わうこと、ボールを使って遊ぶことなど、全く違う世界に飛び込むのではないこと(小学校でも様々な運動をとおして楽しさや喜びを味わうことを目指す)等これまでの経験や学びを継続する形で学習が始まる。